

The gazette of International University of Health and Welfare

21世紀、医療福祉の陽が昇る。



2001年初日の出 (AM6:58)、360度の大パノラマ (E棟屋上にて)



特集 **イングリッシュスピーチコンテスト**
インタビューシリーズ 学生部長 丸山仁司教授
学生会に聞く



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成13年1月20日
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116
ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>

新年の挨拶



理事長 高木邦格

皆さん、新年おめでとございませう。今年は新世紀の始まりということを一際感慨深い新年を迎えた方も多いと思います。大いに希望に燃え、期待もふくらむ年始を迎えていただきたいと思います。

この記念すべき年に、国際医療福祉大学は医療福祉学部で卒業生を送り出す完成年次を迎えます。四月からは大学院の保健医療学専攻に博士課程が加わり、新たに医療福祉経営専攻の修士課程も発足いたします。開学から六年たち、後は二年後の医療福祉経営専攻の博士課程が残るのみで、これで当初のマスタープランがほぼ完成する見込となりました。

漸くここまで来られましたことは感無量であり、毎年、高倍率を乗り越えた優秀な学生を育てることのできる幸運も、多くの方々に支えられ、ご指導をいただいているからこそ感謝いたしております。

また、学内の方々は既に「ご承知のことと思いますが、今年から衛星通信放送を通じた授業を開始することになっています。そのために既に在校生を対象に自宅で衛星放送を受信できるよう準備をすすめているところで、教員の皆さんの多大なるご協力をいただいて番組やテキスト等を作成しています。今後さらに充実した放送番組を放映していくにあたり、皆様のご協力をお願い申し上げます。二十一世紀は調和や協調が主流となることが期待されますが、医療福祉はその中でも大きな役割を果たしていくと思われまふ。本学を卒業した学生がいよいよ社会の中核をなし、自らの力を発揮して活躍していただけることを願っております。



学長 大谷藤郎

皆さん、明けましておめでと。今年はいよいよ二十一世紀にその第一歩を踏み入れました。

大学にとりまして、この三月には医療福祉学部と大学院から第一期生が卒業することになり、それぞれ全国に散らばって活躍されるめでたい年になります。保健学部では早くも第三期の卒業生ということになります。

第一次大戦後に生まれ、第二次大戦の惨禍を経験し、その後の復興とバブル崩壊という二十世紀の明と暗をつぶさに体験してきた私にとりましては、二十一世紀の申し子とも申すべき皆さんが、二十一世紀で活躍される姿をこの目で見る事ができますのは、夢のような出来事でありませう。

どうぞ二十一世紀の日本、二十一世紀の世界で思う存分活躍下されることを心から願っております。十九世紀から二十世紀にはいるとき、二十世紀には人類にとって科学技術の素晴らしい発展があり、なによりも人類の未来は平和と繁栄に向かつて前進するはずという期待の世紀でした。たしかに科学技術の進歩があり、人類の生活は一変しましたが、一方で人類の歴史始まって以来の戦争による大量殺戮が行われました。機関銃や大砲だけでなく、原子爆弾や毒ガスまでが使用されたのです。

つまり人間の知性、理性が政治や行政に健全に機能しなければ、科学技術など文明の進歩があつても、人間の幸せに結びつかないどころが大変な悲劇を引き起こすことを証明して見せた世紀でもありました。

二十一世紀は二十世紀のその愚かさを繰り返すことなく、地球すすべての人間に幸せをもたらす世紀であり社会であつて欲しいと願ひます。そのような社会をきめるのは一部の政治家や官僚の独占に委ねるのではなく、それを實現する担い手はほかならぬ皆さん方であつてほしいと思ひます。

皆さんが二十一世紀の失敗を反面教師として学び、「共に生きる社会」こそ正しい社会であり、医療福祉の仕事を通じてそれを實現されることを心から願ひしております。



大学院遠隔授業



SKY PerfecTV! 放送の様
東京青山スタジオにて

大谷学長に厚生大臣感謝状
二千年十一月九日に鹿児島市民文化ホールにおいて開催された精神衛生法施行五十周年記念「精神保健福祉全国大会」において、津島厚生大臣より、大谷藤郎学長に対して長年精神保健福祉に尽力したことを讃えて「厚生大臣感謝状」が授与された。大谷学長は一九六五年の精神衛生法改正以来現在の精神保健福祉法にいたるまで精神障害者の地域開放のために尽くしてこられた。
また、五十周年を記念して十二月に厚生省より刊行された「精神衛生法施行五十周年（精神病者監護法施行百周年）記念 精神保健福祉行政のあゆみ」の編集委員長を勤めた。本書は百年にわたる国の精神障害者対策を初めて一貫して述べたもので、大学図書館に置かれている。



人間工学会関東支部大会開催

去2000年12月2日(土)・工場の生の功
 3日(日)に本学にて、大会研究澤学各り
 学(第3回)学実行委員学協
 会ま繁生、と、生の
 れ中先のおよび
 先員お了
 教員に

日本人間工学会第三〇回関東支部大会開催記

はじめに 田中繁

人間工学会と聞いてもなじみのない教職員の方もおられるだろう。『人間工学』は『人間と環境(Environment)の訳で道具や機械などを含め人間を取り巻く存在を広義に含める』との関係を最適に導く工学』と私は定義している。

日本人間工学会自体は四十年弱の歴史を持つ学会である。今回開催した会は、この本体の学会ではなく関東支部の大会であるが、全学会委員が三千名弱であるのに関東支部員の数に千五百名で、半数以上を占めている。

最近の人間工学会はリハビリテーションの分野に、以前にも増して興味を持ち始めたところである。また、学会資格ではあるが、エルゴノミスト(日本語では人間工学士と呼ぶ)の制度が始まることで理学療法士、作業療法士、看護婦



などにも受験資格が与えられる予定である。今後、リハビリテーション領域との関係は強化されるであろう。

二 経緯
 昨年度の開催は東京都の国立市にあるJRRの鉄道技術研究所であったが、その少し前に関東支部の支部長である日本大学の青木先生より連絡があり、二千年度の大会を主催してほしいとの要請であった。

やや臆するところもあったが、上にも書いたようにエルゴノミストの資格を今後学生にも受験して欲しいことや、理学療法学科、作業療法学科、看護学科などの関連する学科との連携を深めたいことを考え、引き受ける方向とした。その後、理事長へ開催許可のお願いをする共に、上記の三学科の学科長の協力を得ることが出来、スタートすることになった。

組織としては、外部の経験者から成る運営委員会と実際に大会の計画などを進める実行委員会の二つの組織とした。実行委員会の委員長には理学療法学科の黒澤和生先生になっていただいた。開催日は二千年十二月二日(土)、三日(日)と決まった。

三 大会のコンセプトとプログラム
 今回は二つのキーテーマを設定した。一つは、私が研究対象とし、また講義にもなっている福祉用具との関連で『人間工学と福祉用具』とした。もう一つは、これも私自身の悩み事でもあるが、『医療系学生への人間工学教育』とした。これらのキーテーマを中心に据え運営委員の皆さんからも意見をいただき、実行委員の中で討議を進め、二つの特別講演、二つの



シンポジウムを設けることとなった。



齋藤正男先生

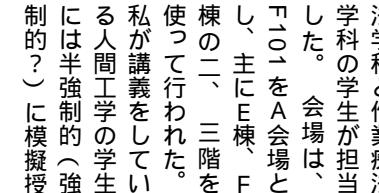
幸いなことに、特別講演には福祉用具の分野で研究だけでなく行政面でも中心となっておられる、東京電機大学の齋藤正男先生に受けていただくことが出来た。この特別講演は、その後近隣の市町村などの要望もあり、公開講座となった。そのために、齋藤先生には、『高齢社会と福祉工学』というよりわかりやすいテーマで話しをしていただくこととなった。

また、シンポジウムはキーテーマのとおり『福祉用具と人間工学』と『医療系学生への人間工学教育』とし、この分野で活躍されている先生方、それぞれ五名に進めていただいた。また、教育のシンポジウムに関連して、『模擬授業』が開催された。この他に、最近の人間工学関連技術を紹介・講義する『企業プレゼンテーション』などの催し物が行われた。

また、独立した催し物ではあるが、支部大会の特徴である学生による卒業研究発表会も並行して開催された。もちろん一般講演もあり、これにはちょうど五十題の講演が行われた。

四 開催当日の様子

幸いなことに当日は快晴となり、前日から周辺のホテルに宿泊された方々を中心に早朝より参加していただけた。受付は主に理学療法学科と作業療法学科の学生が担当した。会場は、F棟の一、二、三階を使って行われた。私が講義をしている人間工学の学生には半強制的(強制的?)に模擬授



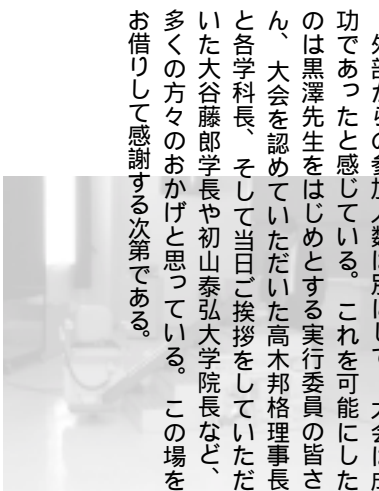
業を受講するように進めたために、本学の学生の参加も多かった。

参加者は外部からの参加者百八十八名(内学生七十九名)、本学の関係者百十一名(内学生は百九名)で、総合計三百三十三名であった。残念であったのは公開講座とした特別講演への参加を目的とした方がわずかに四名であったことである。また、外部の参加者数も残念ながら期待した数とはならなかった。

五 うれしかったことと反省事項
 まず、多くの参加者からお褒めの言葉をいただいたことを報告したい。内容についても斬新的で、充実していたという言葉をいくつかいただいたが、学生に対する印象が大変良かったようである。一つは、受付その他を手伝ってもらった学生達に対するお褒めの言葉で、とてもいい印象を得たとの話しをいくつかいただいた。また、模擬授業に参加した学生の受講態度についてもとても良かったという声を、模擬授業をしていただいた何人かの先生からいただいた。大変鼻が高い思いをしたが、これは日頃の本学の教職員の方々の努力の賜と思う。誇りにしてもよいのではないだろうか。

逆に、反省とはいえないかも知れないが、参加者数が思ったほど伸びなかったことは残念であった。主催者、特に大会長の力量不足は拭えないが、地の利の悪さも感じた。

六 おわりに
 外部からの参加人数は別にして、大会は成功であったと感じている。これを可能にしたのは黒澤先生をはじめとする実行委員の皆さん、大会を認めていただいた高木邦格理事長と各学科長、そして当日ご挨拶をいただいた大谷藤郎学長や初山泰弘大学院院長など、多くの方々のおかげと思っている。この場をお借りして感謝する次第である。



丸山先生に聞く 本学生の心

平成十二年十二月六日収録

〔聞き手〕広報委員長宮尾洋子

：新年あけましておめでとございませう。本学の医療福祉学部も今年度で完成し、この春は第一期生の卒業、保健学部は三期生が卒業することになります。何と申しまして、大学の主役は学生です。今世紀最初のI.U.H.W.には理学療法学科の学科長でもあり、初年度から学生部長として学生とよくつきあわれ、丸山先生に、本学の学生、学生生活、キャンパスライフ、学生気質等について語っていただきたいと思っております。丸山先生、お忙しい中ありがとうございます。まず、学生部の構成、取り扱っている事柄などを説明いただけますか？



丸山仁司先生

：丸山先生、お話を聞かせていただき、ありがとうございます。丸山先生、お話を聞かせていただき、ありがとうございます。丸山先生、お話を聞かせていただき、ありがとうございます。

丸山：去年の六月頃までは、よろず相談というところで、学生委員会の各教員が交代で週二回行っていました。学生のためにも、何で相談しているか、ということでも、やはり精神的な問題は、教員でない専門家の相談が非常に重要だということ、カウンセラー二人が学生相談室に常置されました。一人は精神保健福祉士、そして臨床心理士の卵の方が助手として二人で相談にのっています。去年は月に二十、三十名の学生が訪れて相談を受けているという現状です。どういふ相談が多いかといいますが、大きく分けると二つです。一つ目はやはり進級・留年の悩みを含めた学業・成績の問題ですね。二つ目は就職の悩み、卒業した後どうすればよいかなど将来への不安です。三つ目は友人関係です。

丸山：一人暮らしをこの土地で始めるという学生も多いわけですが、大田原、西那須野といういわゆる田舎・田舎の町の新しい環境で、慣れない一人暮らしには色々問題があると思うのですが、その場合カウニングだけでなくて、どういう風にして学生は乗り越えているのか、先生はどのようにご覧になっていますか？

丸山：学生部は、学生課という事務組織と、学生委員会という教員で構成される諮問機関とで構成されています。学生委員会の業務としては、奨学金の決定、クラブ・サークルの認定等を行っています。それから大学祭や運動会等の大学行事の検討と、学生との調整を行っているのも学生委員会です。そして具体的な事務のやりとりを学生課で行っているわけですが、学生課では部室、施設使用などクラブ・サークル関係、行事、学生の交通事故や駐車場の問題、傷害等の保険関係などを扱っています。学生課は、色々と色々なことで揺れ動く世代ですから、学生課が行う仕事は膨大な量になるように思いますが、丸山：そうですね。学生課には学生相談室というものもあります。その学生相談室では精神的な問題からちょっと気になつたこと、友人関係等の相談を行っています。

丸山：初めの頃は学生委員会の先生方が学生のために、よろず相談を担当していらしたと思うんですが、この度専門のカウンセリングをしてくださる先生がいます。

丸山：学生生活には色々ありますが、やはり大学生には学業はもちろんなら、友人関係も非常に大切なことだと考えていますので、クラブ活動、友人関係を中心に聞いてみました。サークルも含めてクラブの参加状況をみると、約六十五%の学生がどちらかに入っているという結果が出ました。約一ノ三の学生はどちらにも入っていないようです。自宅が遠いためにクラブに参加できないという声もありますが、クラブ活動に満足している、もしくは普通だという学生は、その中で半分しかいないので、ある程度クラブ活動が低迷しているという状況がうかがえます。

丸山：そうですね。学生生活の満足度というのが一番大切だと思うのですが、五段階評価で、「やや低い」、「低い」という学生が十三%で、一部の学生は学生生活に満足していないようですが、普通、「やや高い」、「高い」を含めると八七%で、半数以上はある程度満足しているということですね。それから、大学行事に關しては、大学祭または運動会とちからでも参加したかという項目を見ますと、九十%の学生が参加しています。しかし、もう少し楽しい大学祭または運動会にしてほしいという意見も出ていますね。楽しいと思っている人が五十%位で、つまらないから参加しないというような学生が半数もいるんです。この他にもアルバイト、ボランティア、自動車所有しているかなど、八十項目位の調査をしました。

丸山：その調査からこの大学の独特の学生像というのが見えてきますか？

丸山：そうですね。一期生は未知の世界に入ってきたことからバイオニア精神、積極性が非常にあつたのではないかと

丸山：本学に対して、学生が気に入っている点はどこですか？

丸山：一つの例として教員との関係の満足度というのもアンケートに入っています。が、将来一緒に仕事をしたいということでも教育をしていますので、そういう面では学生と教員との関係が非常に大切だと思います。教員との関係に満足していないというのが十五%位ありましたが、八十五%の学生は満足してくれているのではないかと思います。よく研究室に来る学生は決まった顔ぶれになつてしまつて、近寄りがたいと思うのか、なかなか来られない人もいます。

丸山：これは他の学科もそうですが、担任制度で指導する場合や、教員が十、二十名学生を受け持つアドバイザーとして行っている場合などもありまして、なるべく個別にフォローしていくという



丸山：学生の三大不満は、駐車場、学生食堂、図書館です。駐車場に関しては、登録料の問題、スペースの問題があります。これに対しては、今年度中に新しい駐車場に着工して六〇〇、八〇〇台分増える予定です。登録料の考え方は色々ありますが、車を所有してはいたため寒いときでも歩いて来なければならぬ学生と、車でサツと来られる学生とでは多少差があつても仕方ないのではと思います。その辺は学生に自覚してほしいですね。学生食堂に関しては、「まずい」「高い」という声があんけつにはいつもできてきます。これに対しては、大学が直接経営しているのではなく外部業者の経営ですので、調整はなかなか難しいところです。学生が利用する期間が限られていて年間を通して営業できるわけではないので、経営が大変だということも考えなくては。図書館の問題は、学生の注意も必要だと思つていますが、「うるさい」という声が多いですね。それから場所が狭いとか、もっと多くの本が欲しいという意見があります。これは、どんな本を入れて欲しいかアンケートしていただきます。こちらを活用してほしいと思います。



宮尾洋子先生

丸山：アンケート結果ではアルバイトをしていないという学生は一ノ四位です。アルバイトをする目的は色々あるようですが、「旅行・レジャーのため」というものが一番多く、次に「生活のため」となっています。アルバイト内容はレストラン・コンビニ等の接客業が一番多く、次いで家庭教師の順ですね。そうしますと本学の学生は授業があり、実習があり、クラブ・サークルに参加し、友達ともつきあい、アルバイトも、相応に忙しい学生生活を送っているわけですね。

丸山：そうですね。アルバイトに関しては夏休みなど長期休業中にやることが多い

丸山：ようです。授業の負担が大きく、クラブ活動が充分にできない面もありますが、そういう意味では学生は皆まじめでよく勉強しているという印象です。学生部長として新しい夢、または現実的に本年の抱負、方針などについてお話しください。

丸山：

丸山：大学全体で行う行事がより盛んになり、多くの人が参加して盛大なものが増えてきたらと思います。大学祭は、好きな人だけ参加してあとの人はお休みから旅行に出かけたりしてしまふという話も聞きますので、大学祭にもっと文化的な要素を入れていきたいと思つています。今は屋台と舞台の上が中心なんです。講演会やシンポジウムを開催したりすることが必要だと思つています。それからもう大学の環境をよくしていきたいですね。公園を作つてベンチを入れたりとかが、もう少し学生らしい生活ができるようになればいいですね。

丸山：

丸山：そうですね。その他にもハード面ではキャンパスにもう少し木が欲しいですね。木陰でくつろいだりできますからね。それから水が流れていると夏涼しげでいいですね。一年中泳げるようなプールも欲しいです。色々挙げればきりがありませんが、プールと道場は今中では難しいですが、計画している話を聞きます。学生のクラブ活動でも様々な大会で優勝したり、国際大会に出場したりしていますし、どんどん盛んになってきていますので、環境を整えていきたいと思つています。それにはもう少し時間が必要ですが、そうですね。何年という時が経つてキャンパスも充実し、ここで育つた学生さんたちも社会で頼りがいのある医療従事者になると思うとほんとうに楽しみです。これからも先生さんたちのためによろしく活躍下さい。本日は色々ありがとうございました。



丸山先生のお話にもありました学生会について以下で紹介します。

国際医療福祉大学学生会は、二千年四月より正式に発足した学生の自治組織である。会長である医療福祉学科三年の小原直人君を中心に、五つ局から構成される。当大会は専門職を目指す機構となつているため、一年時より専門的な授業が始まり、四年時では実習のために各地へ出向いており、なかなか学生全体をまとめる活動ができない状態であった。

学生会の目的は、学生の意見を集めて学生全体の利益を代表する活動を行うことである。五つの局はその目的のために、総務局、部・サークル局、施設局、メディア局、行事・企画局の五つから構成されている。学生会の活動は、各学科の一年から三年までのクラスより学生会役員を選出し、学生会全体の情報交換と活動方針を決定するために月一回局長会議が開かれ、具体的な活動は各局が不定期に会議を開いて実施されている。また、学生の声をより広く集めるために、昼休みは総務局の役員が学生会室にいて、いつでも学生の相談にのれる体制になつている。

今年度の活動は入学式、運動会、風花祭などの行事活動をこなし、部やサークルの活動を援助し、部・サークルの施設拡充について大学へ要望などを行つてきた。しかし学生全体にも学生会の存在がまだ周知されていないのが現状で、充分な活動ができていない。

現在の企画は、卒業生や四年生の意見を取り入れて三月に大学内のフリーマーケットを開催することである。卒業生の引越し荷物を少なく、いらなくなった物が在校生などに有効利用してもらえるという企画したものである。フリーマーケットはゆくゆく地域の方達も巻き込んで、大学の恒例の行事としていきたいと考えている。

(菅原洋子)



学生会のメンバー



来年度から学生会会長になる看護学科一年生の松田瞳さんに学生会について聞いてみました。

松田：

学生会を運営する上で大変な点はありますか。学生会としては精一杯頑張つて活動しているつもりなのですが、残念ながら学生全体に私たちのビジョンは勿論のこと活動内容もまだ浸透してないのが現状です。まずは学生会の和を作つていきたいと思つています。学生会の和を作り上げる理由は、連携を持つことで大きなものが出来上がるからです。そのことを十分に皆さんに理解していただくことが大変です。学生会に対して学生からの要望、意見等がありますか。はい。学生会のホームページ上の掲示板で学生の皆さんからの様々な意見が寄せられていています。主なものはやはり車両関係の意見です。駐車場の狭いという点、校門前の渋滞、バスの本数が少ない等の不満です。駐車場の現状については多くの学生はあまり知らないのですが、学生会としては事情を説明して理解してもらつた上で意見を聞いて事務局などを通して改善していければと思つています。またバスの本数に関してはいつの間にか問題化して本数を増やしてほしいという利用者が少なく結局元に戻つてしまつたという経緯がありますので難しい問題であると思つています。

松田：

学生会全体が参加する学生会にするにはどうしたらよいかと思つています。来年度から学生会の会則を作り、今後はその会則に沿つて学生総会、代議員会、部・サークル会議、クラス代表者会議、局長会議等をつかり実施する事を通して学生の皆さんに学生会の存在を浸透させていきたいと思つています。それと学生会のビジョンが学生の皆さんに見えるような企画をどんどん実施していきたいと思つています。

5th ENGLISH SPEECH CONTEST PRESIDENT'S TROPHY



学長を囲んで参加者全員で

第五回学長杯英語スピーチコンテスト開催
優勝は言語聴覚障害学科の三浦久美さん

恒例の English Speech Contest も今年には第五回となり、振り返ってみるとそれぞれの印象深いシーンが鮮やかに蘇ってきます。今年も、その歴史の一ページとなる素晴らしいコンテストになりました。二年生全員が参加したクラス予選を勝ち抜いた代表二十五名が、十二月六日(土)を満席にした聴衆を魅了しました。理学二年早瀬敦子さんと作業二年蓮見昭洋さんの司会進行のもと、拍手と感嘆の溜息とで大教室が終始熱気に包まれました。ゲスト審査員は杉原素子先生、今井四郎先生にお願いしましたが、入賞者決定は僅差のため大変だったということでした。その中、学長から一位のトロフィーを手渡されたのは三浦久美さん(言語)、二位は江守亜矢子さん(放射)、三位は高橋正郎さん(看護)でした。一人一人の壇上での勇姿と笑顔をいつまでも憶えたいと思います。
(南井紀子)



学長の話にはいつも心打たれます

わが大学にとって毎年恒例の行事となつて居る第五回英語スピーチコンテストは、今年には二十世紀最後の月となり、思い出として残る夜の催しとなりました。学生代表の皆さんの熱心な参加と熱弁に心から敬意を表します。

今年はこのメアリ・フィッシャーのエイズについての演説が採用され、二人の子供を「社会の子供」として委ねるとの言葉に胸うたれました。

数年前の年末に、日本で二番目が三番目かにかミング・アウトしてエイズ差別と闘っていた石田吉明さんと都庁前の石畳み広場でエイズキャンペーンのためにトークショウしたことを思い出しました。石田さんは翌年死去されましたが、学生の皆さんが絶叫されるフィッシャーのエイズの言葉を聴いて、死を前にした彼の姿が私の胸にのみがえりました。

それで二十世紀最後の思い出として参加の皆さんにそれを話しました。

大谷学長に英語スピーチコンテストの感想を寄せていただきました。



2位入賞者：江守亜矢子(放射)
I am very glad to have won the second prize in the Speech Contest. I deeply appreciate this chance. It was certainly a precious experience for me. I gained a little confidence in myself. Being a Fisher, I enjoyed making a speech and I enjoyed the contest, too.



優勝者：三浦久美(言語)
What is freedom? I had never thought about it until I chose Dr. King's speech. I studied his speech, and although the social and historical background is quite different from ours today, I realized how important it is to appreciate the freedom we have.

I learned to be thankful for being able to have freedom. Being on the Speech Contest was a great experience. Up on the stage, I enjoyed making a speech. I even felt comfortable because of the great audience that night. Thank you very much.



3位入賞者：高橋正郎(看護)
私はJ. F. Kennedyを選びました。この原稿は秘書の手によるものだとも言われていますが、それでもビデオで実物を見、内容を理解すればするほど、私はケネディの虜になりました。ケネディのメッセージが私の中で力となり、この度、ENプロジェクトの立ち上げにつながりました。今回のスピーチコンテストで、真のリーダーとは何なのかを学んだと思います。そしてこれからの大きな課題としてより多くの実践の場で、リーダーシップを発揮したいと考えています。私はやります。



参加者にコメントを寄せてもらいました。



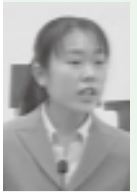
梶山智之 (放射)

I was supposed to be the first speaker in the contest. But due to some incident, I was late, and I am sorry that the second speaker had to go first. And I spoke as the second speaker. It is difficult to speak in English, but I really enjoyed being in the contest. I had a good experience. Thank you.



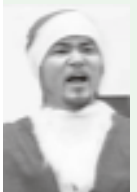
劔持幸子 (福祉)

まさか私が出場することになるとは思っていなかったので、大変光栄でした。始めはあまり理解できなかったFisherのスピーチも、練習を繰り返すうちに、自分なりに理解できるようになったと思います。当日は大変緊張しましたが、精一杯頑張りました。この経験を今後に生かしていきたいと思えます。



高橋万里子 (理学)

Thank you for giving me this chance! Though I was worried and upset before going up on the stage, I really enjoyed myself. Through this contest, I learned not only to pronounce English sounds accurately but also to express myself. This experience taught me very important things. And I realized how happy and lucky I was to get help from many people: teachers and friends. My dear friends, you were a pretty party in the audience that night, and your support cheered me up. Here is my message to you; The heart of challenge changes you!



大橋淳平 (経営)

今回のスピーチコンテストに参加できたことは、私の人生でとても貴重な経験になりました。平々凡々の学生生活に吹き込んだ一陣の風のようなものでした。この経験を将来なるであろう病院経営者のいろいろな面で役立てていきたいと思えます。今後は、もっと門戸を広げて、もっと多くの人が参加できるコンテストの開催を願います。



渋谷菜穂子 (看護)

スピーチコンテストへの出場は、私にとって大変貴重な経験でした。クラス代表に選ばれた時は、辞退も考えましたが、先生方の支えもあって最後までやりとおすことができました。「私なりのFisherをやろう。今の私ができる範囲で彼女の思いをぶつけてみよう。一人一人の心に届くように...」

そう心に決めて臨んだ本番でした。後日、友達から「スピーチ、見たよ。私、英語よくわからないけど、なんか、エイズで辛くて大変だけど頑張ろうってのが伝わってきたよ」という言葉をもらいました。心からやって良かったと思った瞬間でした。

今回のスピーチコンテストへの出場は、本当に勉強になりました。スピーチ自体はもちろんのこと、人に自分の思いを言葉で伝えることの難しさを知ったこと、病氣と闘うということ、そして自分は沢山の人の支えられて来ているということを痛感したこと。このチャンスを与えて下さった全ての方々へ、感謝の気持ちを込めて。



尾原恵美 (言語)

Fisher女史のスピーチを初めて聞いた時、冷静に淡々と語っている姿に感動し、自分もFisher女史のように語りたと思い、彼女のスピーチを選びました。しかし、いざ、スピーチ内容を手元に置いて、自分なりに伝えようとすると、あまりの内容の重さにどう表現したらよいか、とても悩みました。そんな中、先生方や友人のアドバイスのおかげで本番に臨むことができました。大勢の中で、それも英語で話すという大変貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



阿久澤直樹 (理学)

今回、これからの人生において大きな経験をしたと思えました。なかなかあいう場を発表を行う機会はないと思うのでよかったです。みなさんの練習量はすごいと感じました。理学のテストと重ならなければ、もっと練習したかったと思います。できれば、これから学生自身の言葉で学生の考えを発表できる場があるとよいと感じました。しかし、この経験自体は私にとって最高のものでした。ありがとうございました。



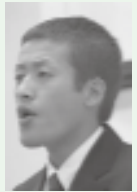
新里 一 (作業)

I had a good time at the contest. More students should notice this contest, so that many more participate in this contest to have a good experience. I have one suggestion to make; the contest should be The Performance Contest adding a special prize called the best performance. I hope this contest will develop adding many features as years go by.



近藤清美 (経営)

本選に選ばれただけあって、それぞれ個性があり素晴らしいスピーチだったので驚きました。前に立った時、大勢の人達の視線を感じ、とても緊張しました。でも、一言一言話しているうちに緊張感もきえ、むしろ大勢の前で話すということに快感を覚えました。記録に残るような結果は出せなかったけれど、スピーチコンテストに出場できたことを嬉しく思います。



三上 勸 (福祉)

I enjoyed this speech contest very much, and it was so nice, interesting and exciting for me. Every speaker had outstanding originality and good pronunciation. Given this opportunity, I made up my mind to start studying English conversation in order to be a new native speaker. As the 21st century is coming closer, this contest should develop. How about a contest where students can make speeches of their own?



高瀬まゆみ (福祉)

私は今までこんなに沢山の人の前で話すという機会がなかったので、正直とても緊張しました。授業の教室で発表した時でさえも、足や声が震えてしまっていたのに、300人の人の前でスピーチをするということを考えてだけでも逃げ出したいような衝動にかられました。でも、授業の空き時間に友達が練習につき合ってくれたり、先生に指導して頂いたりして、なんとか本番を乗り越えることができました。練習につきあってくれたみんな、見に来てくれた人達、指導して下さった先生方、本当にありがとうございました。



林みどり (言語)

Fisherのスピーチには、以前働いていた児童養護施設の子どもたちとある面重なる部分がありました。それだけに練習中から胸がつかまる感じがたびたびありました。

当日は、異常な程緊張して順番を待つ私がいました。人前で何かをしようとすることは、個人差はあるけれどもとてもおおきなプレッシャーだと思います。緊張と不安の中、それを乗り越えるということは、その時がくるまでの過程をどのように準備をして迎えるのかなのかもありません。私は、友人からその姿勢を学びました。ありがとうございました。また、温かい励ましの言葉を掛けて下さった皆さんと当日応援して下さい下さった皆さんのハートにありがとう。



山内義崇 (理学)

選考された24名と一緒に speaker として参加できて嬉しかったです。私は入賞できませんでしたが、実際入賞された方々は人を惹きつけるものをもっていました。出場者としても聴衆の一員としても楽しませてもらいました。あの場に参加していた全員に感謝したいと思います。ありがとうございました。



落合 一 (福祉)

I had a very good time at the English Speech Contest. When I was chosen as a class representative, I was at first unwilling to take part in the contest. Thanks to eager and strict training by the teachers, I learned to make a good speech. Though I was very nervous standing before the large audience, I was very happy that I could speak without any mistakes. Now I am proud of having been in the contest and I could gain a little confidence in English. I want to express my deep gratitude to the teachers who helped me and supported me.

十二月に入り恒例となつた「国際交流親善パーティー」が十二月四日カフェテリア二階で開催され、本年の活動を振り返りかえり、今後の幅広い活動を願つて交流を深めました。留学生、海外活動参加学生の代表、海外学生会議参加・学内活動協力会の学生等約三十名、ホストファミリー、関係教職員約四十名が参加しました。

本年は念願の国際交流センターが棟にオープン、海外活動も単位認定科目となつて五十名がベトナム、中国、アメリカ、オーストラリアで貴重な体験をしました。また、留学生の活動も目覚ましいものでした。理事長のご挨拶で幕を開け、宮尾語学教育センター長の乾杯で宴となりました。大田原国際交流会会長、事務局長も出席され、韓国留学生が通訳としてお手伝いしたことへの御礼が披露されました。

余興の部では、先ずコンテスト入賞の高範守さん(理学二年)のスピーチ、曹秀如看護二年・ホストファミリーの今井夫人・宮尾教授による演歌、長谷川真人・渡利太(理学四年)両君による二人羽織、オーストラリア参加学生による全員参加のジェスチャー伝言ゲームと続き、最後にダンス先生とお嬢さんの司会でブロンコゲームを楽しみました。これも恒例になつた教職員寄付の景品に、笑顔があふれました。長谷川国際部長首領による「万歳三唱」で幕を閉じました。



理事長もパーティーに参加されました

留学生の活躍!

「いっくらスピーチコンテスト」においてマロニエ賞獲得



高 範守さん

11月18日(土) いっくら国際文化交流会主催、栃木県国際文化交流協会共催の「いっくらスピーチコンテスト2000」が宇都宮大学の学生会館で行われました。本学からは韓国出身、理学療法学科2年の高範守さんが選ばれて出場、昨年の蔣讃奎さん(理学療法学科2年)に続いて、見事「マロニエ賞」を獲得しました。今年も大学の友人が大勢で応援に駆けつけ入賞を皆で喜び合いました。

今年は「21世紀に生きる私」というテーマで、栃木県在住の中国、韓国、ベトナム、インド、インドネシア、ブルガリア出身の12名が、母国を思い、自分たち若者の力でまわりの環境をよくしていきたいと、夢を語ってくれました。

高さんのスピーチは、韓国で半身不随の大怪我をした友人が理学療法士の方で回復したことに感動し、その勉強をするため日本へ来て、本学でクラスメートに助けられながら理学療法士を目指していること、日本人と接しているうちに日本に対する見方も変わり、次世代を担う自分の子供たちを日本へ呼び寄せ、両国の架け橋となることを親として願っているという、とても感動的な話でした。審査委員長からも、いっくら文化交流会会長からもお誉めの言葉をいただきました。素直に日本人を受け入れ、日本の良いところを見て子供たちに日本の文化を学ばせたいという韓国人が増えれば、一番近くて遠い国である韓日の関係が将来必ず良くなることでしょう。

応援に来ていただいた蒋さんも気付いたように、大学の校内にも係わらず若者の聴衆が少ないのは残念でした。彼らの話を聞いて触発され、自分の夢を語る若者が増えれば、昨今の少年犯罪も減ることでしょう。(語学教育センター 和田真知子)



スピーチをする高さんと応援に駆けつけた学生



那須ひまわり会
0287-24-3028
言語聴覚障害学科内(菅野)まで

第1回車椅子テニス講習会、ニューミックス大会を終えて



蔣 讃奎さん

平成12年11月11日、大田原市の県北体育館テニスコートで「車椅子テニス講習会およびニューミックス大会」を大盛況にて終えることができました。目的は、車椅子テニスを地域に広め、障害者の社会参加を促すことと、車椅子の人と健常者がペアになって試合を行い、お互いの親交を深めることでした。総参加者は62名と予想をはるかに上回る人数でした。内容は、車椅子テニスのデモンストラレーションと講習会とニューミックス大会でした。特に講習会では同じコートの上で汗を流しながら笑みを浮かべる皆さんの姿が私にとって一生忘れられないものとなりました。ニューミックスとは、身体に何らかの支障を持っている人と持っていない人がペアになり、試合を行うことをいいます。

車椅子テニスは、1976年にアメリカで始まりました。1988年には国際車椅子テニス連盟(IWTF)が創設され、現在はパラリンピックの正式種目として採択され、国際的なスポーツとして発展しています。一方、日本では、1981年5月に「国際障害者年をすすめるスポーツと文化の祭典」で初めての講習会が開かれ、日本各地で大会が行われています。しかし、栃木県では車椅子テニスというものが珍しく、組織化されていないことに気づき、それが今回の講習会と大会を企画したきっかけの一つでもありました。車椅子テニスのルールは2回バウンドして返球してもよいという点が違うだけです。そのため、車椅子テニスは、数多くの障害者スポーツの中で、だれもが親しみやすいスポーツの一つとして定着しつつあります。

今回の講習会と大会を終えて、参加者全員の心が一つになり、楽しい一日を過ごせたと思います。ただ、この地域の体の不自由な方の参加が少なかったため少し寂しい気持ちもありました。来年はもっと充実した車椅子テニス大会にしたいと思っています。

最後に、当日ボランティアとして参加してくださった大学のテニスサークルの皆さんや学生の皆さんありがとうございました。



車椅子テニスの参加者の方達と共に



参加者全員で記念撮影をしました。楽しいひとときでした。

「失語症交流会「那須ひまわり会」について」
失語症は、大脳の言語中枢に器質的な障害が起ることで発症し、発症後は、言語理解や言語生成能力が低下することになります。失語症は、脳の損傷の後遺症として現れる脳障害の一種で、発症後、言語理解や言語生成能力が低下することになります。失語症は、脳の損傷の後遺症として現れる脳障害の一種で、発症後、言語理解や言語生成能力が低下することになります。失語症は、脳の損傷の後遺症として現れる脳障害の一種で、発症後、言語理解や言語生成能力が低下することになります。失語症は、脳の損傷の後遺症として現れる脳障害の一種で、発症後、言語理解や言語生成能力が低下することになります。

学科・センター便り



大学院

去る十一月十三日、一年生の第二回研究報告会が開催されました。七月末の第一回報告会に比べて、研究の方向付け・絞り込みが一段と進んだ報告が多数を占めました。報告会終了後の懇談会（棟口）は、初山院長による一年の締めくくりのご挨拶でスタート、二年生の顔もちらちら交じって、定刻を過ぎるまで賑やかな語らいが続きまして。

二年生は、年明け早々に迫った論文提出に向けて冬休み返上でのラストスパートに突入。

十一月二十一日付けで文部大臣より、大学院の保健医療学専攻博士後期課程および医療福祉経営専攻修士課程の設置が承認されました！関係各位のご尽力ありがとうございました！

看護学科

臨床看護実習真つ只中！

看護学科三年生は、たぐいまれな十六週間にわたる臨床看護実習の真つ只中です。慣れない医療の現場であら、これが授業で聞いたあんなのか？と感動したり、普通の日常生活では何げないことが、医療現場では重大な責任を伴うことに戸惑ったりして、臨床ならではの学びを深めています。

寒さが一層厳しくなる中、体に汗を流して、一月末の実習終了まであとひと息、頑張りましょう。

理学療法学科

理学療法学科はただいま準備中。

一年生は専門科目の多くなる二年生に備え、解剖・生理・身体運動学を中心に漸進的に備え合入ってきたところ、二年生は検査・測定実習と機能診断学の口頭・実技試験に備え講義終了後、夜遅くまで実技練習の風景が見られた。三年生は中間試験真っ最中、二年生よりも緊張の連続で汗顔に話し掛ける危険な状態との噂もあつた。四年生は就職活動が終盤となり、また卒業研究・発表、論文提出と一連の作業が終わり、国試に向けて走り始めた。将来の臨床を意識しているので、清々しさのある良い意味での緊張状態となっている。

作業療法学科

自分をどう活用するか？

「自分の治療的応用」と言ふことは、死語に近いこの話も耳にしますが、いつの時代であれ、サービス提供者として最も多く使っているのは、「自分自身」でしょう。「自分がどういう人間か。得手不得手・限界を知った上で如何に上手く自分を使いこなすか、実習をする上で重要になってきます。

四年生が総合実習から戻ってきました。知識不足と社会的スキルの乏しさを指摘されています。これらは数日では身に付くものではありません。年・世紀の変わり目に、今一度自身を見つめ直す機会を持つてみては？

言語聴覚障害学科

目標に向かって日々努力！

十二月で臨床実習を終えた四年生は、三月二十五日に実施される言語聴覚士国家試験に向けて現在猛勉強中です。昨年同様、学内の多くの先生の御協力を頂き、国家試験対策講習会を一月月上旬に実施することが出来ました。

また、二年生にとつても今までの講義や演習のまとめとともに、来年度の臨床実習に向けての準備の時期に入り、期待と不安でいっぱい頃かと思ひます。

慌ただしく過ぎていってしまつたこの時期に、みなさんが自分のなすべきことをしつかりと見詰め、目標に向かって悔いの残らないよう取り組まれることを期待しています。

放射線・情報科学科

放射線・情報科学科

明けましておめでとございませう。二十一世紀に入り、大学教育も大きな変革の時を迎えました。診療放射線技師の養成課程については教育内容の弾力化や履修負担の軽減等の観点から大綱化カリキュラムが検討され、診療放射線技師カリキュラム等改善検討会報告書がまとめられ、平成二十一年十一月一日付けで厚生省健康政策局医事課長から各都道府県衛生主管部（同）長宛、栃木県保健福祉部長から本学学長宛てに同報告書が送達されました。これからの診療放射線技師の養成はこの趣旨に沿つてゆとりと特色のある教育を目指して、本学科の力

基礎医学研究センター

試験についての今昔物語

このE.U.H.W.「学内報」が発行されるころは全学あげて後期の試験期です。基礎医学研究センターでも、各教員の教育効果がきちんとなつたか、なかつたかを問われることになりました。採点結果によつては、マークシート式がよかつたか、記述式がよかつたかなど、いつも反省の材料になります。ずつと以前の医学系の大学で、特に基礎医学で、つまり、ムント（Mind）ドイッシュで口の意味）、つまり、少数グループに別れて、それぞれが、時間を決めて教授研究室で二、三クの問題を出されました。すべて協同責任で、誰かトーンカンな回答をしようものなら、その瞬間「ピンコン」(wieder kommt)の省略)「またいらつしやい」つまり不合格に

医療経営管理学科

医療経営管理学科では、一月十六日に今年の三月で本学をご退任される先生方から学生の皆さんへ一言ご挨拶を頂きました。

本学科設立当初から教育内容の充実に「尽力され、本学の名物？」にまでなつてしまつた紀伊國三先生。針谷達志先生、先生のお陰でゼミ生達は無事に本学から巣立って行つてくれそうです。加藤雄一先生には講義以外の時間でも「医学研究」で学生の面顔を随分見て頂きました。

橋本正弘先生は日本で初めての学部の卒業生就職活動で大変お世話になりました。島津望先生、講義やゼミ生のご指導お疲れ様でした。

これからも、先生方には医療経営管理学科やこの大学を見守つて頂きたいと存じます。改めて御礼申し上げます。有難うございませう。

医療福祉学科

もし模試、国試

医療福祉学科四年生は、学内の先頭を切つて国家試験に臨みます。二〇〇一年一月二十八日の社会福祉士試験、一月二十七日・二十八日の精神保健福祉士試験で四年間の学習の成果が試されます。

振りかえれば、昨年十一月十八日には全国模試を受けて受験勉強の完成度をはかり、十二月十三・十四日には学科模試をつけて力試しの駄目押しをし、クリスマスやお正月は返上して、四年生は受験勉強に邁進してきました。いよいよ来週が本番です。一期生の奮闘を支援ください。

健康管理センター

閉めきつた乾燥した部屋は風邪のもと

十一月の学生・教職員のカリニク受診者数は合計千七百七十七名で、内訳は医科が学生五四〇名、教職員百五十三名、歯科が二百八十四名、教職員七十名でありました。風邪が二百八十四名が多くなつています。冬は風邪の多い季節ですが、寒さよりも湿度が低いことが一番の原因です。風邪のウイルスは湿度が低いほど長時間生存します。室内は暖房によつてさらに湿度が低下します。加えて換気が悪いとウイルス粒子は長時間浮遊することが出来ます。室内の乾燥と換気が気をつけ、身体の無理をせず、うがい

言語聴覚センター

言語聴覚センター

言語聴覚センターは、開設から五年目を迎えました。この間栃木県全域、福島など近隣県から、一〇〇〇名を超える方が訪れました。これまで小児が中心でしたが、最近ではクリニクに併設された通所リハビリに通う成人の方々の利用も増えていきます。取り扱う疾患の種類は、知的発達障害、自閉症など発達障害が約半数を占めますが、このなかには最近社会問題として取り上げられることが多い不登校や注意集中困難多動障害など、必ずしも言語障害とは直接関係のない問題を主訴とする例も少なくありません。補聴器の装着指導を行う日は、高齢者、小児を含め耳の聞こえに悩む方で、廊下があふれます。センターの臨床業務の多くがリハセンター小児神経科、クリニク耳鼻科の先生方の協力を得て成り立っています。高齢者の記憶障害や摂食障害の訴えも徐々に増えています。センターの役割が地域に浸透するにしたいが、センターに求める地域社会のニーズも幅広くなつていくように思われます。



リレーエッセイ

理学療法学科 潮見 泰蔵



「チェロとシナプス可塑性」

まもなく私は45歳になるので、60歳まで残された時間は15年。15年もあると考えるか、いや15年しかないと考えるべきか？いずれにせよ、老後の楽しみにここは一つ何か趣味でも新たに始めてみようかと密かに考えています。それは弦楽器のチェロ。少し前に、テレビドラマでこの楽器が話題になって以来、静かな人気を呼んでいるのだそう。決して、流行やブームに乗るつもりはありませんが、音痴で不器用な私がおの気になるくらい魅力的な楽器で、一度聞いたら、忘れられない音色です。同じ弦楽器のバイオリンの世界では「鈴木メソッド」という日本独自の練習方法があり、バイオリンがやっとなら3歳ぐらいから始める人が多いと聞いています。3歳からの15年 vs. 45歳からの15年。この15年の違い（スキルが発達する時期と衰退していく時期）は大きいですね。実は、手を動かすことで単なるボケ防止になれば・・・と思っている次第です。それから、もう一つ興味を持っていることは「シナプス（皮質運動野）の可塑性と運動の適応制御」について。これは自分の専門領域と深く関連することでもありますが、とても奥深いテーマです。最近、物忘れがひどくなったと自覚するようになってから、不思議なことに急に興味が湧いてきました。今はひたすら関連文献を乱読する毎日です。「チェロ」と「シナプス可塑性」。私にとってそれはボケ防止方略のキーワードです。

私が感銘を受けた本（第8回）

書名：魍魎の匣
著者：京極夏彦
出版社：講談社
紹介者：言語聴覚障害学科
武智司尾子



伝承、迷信、etc.、非科学的ながらも現代に伝えられたものがあります。この作品は、その中の1つ「妖怪」を取り上げた、トリックのないミステリーです。私自身、トリックがない＝事実が事実として記載されているにもかかわらず、すっかり騙されてしまいました。言葉のみで操作される経験がなかっただけに、非常に新鮮な体験をしたように思います。発信源の見えない情報化社会の現代、さて、私たちは誰からも故意に操作されることなく動いているのでしょうか。一度考えてみたいものです。

今回ご紹介いただいた著書は、図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。是非ご愛読ください。（図書館長）

私の研究ノート

変遷する用法-中英語期の不定詞の発達

語学教育センター 千葉礼子



言葉にも歴史があるということを知ったのは何歳の頃だったでしょうか。中学・高校生の頃は、英語の意識は好きでも文法は大の苦手だった私でしたが、大学に入ってから英語史関係の授業を受けたことがきっかけで、古い時代から現代にいたる英語統語法の変遷に惹かれて古・中英語の統語法研究に関わるようになりました。苦手の文法の裏側に、こんなに豊かな言葉と人の係わり、言い換えれば言語と政治・経済・文化との密接で複雑な関係が隠されていたのに初めて気が付かされ、俄然興味を持ってしまったのです。それ以後、特に動詞を中心とした統語法に興味を持って研究を進めてきました。今は中英語初期の宗教散文での不定詞の発達を他の準動詞や関係代名詞節と関連させながら調査しています。

英語の不定詞も他の印欧諸語と同様、動詞に由来する名詞で

すが、動詞を名詞的に使う便利さから古英語後期にはどんどん活動範囲を拡げ、中英語初期にはほぼ現代にまでつながる用法を発達させました。中でもひととき興味を引く現象はtoの付いた不定詞とtoの付かない不定詞とがあまり明確な区別なく使われたり、副詞の意味を強調するためにforをtoの前につけていながら、いつの間にかto不定詞と用法上の区別が無くなりforをつけることが廃れていった、といったようなことです。私の扱う宗教散文の作品群ではこのforの付いた不定詞が比較的よく残っているのですが、何故よく残っているのか、まだよくわかっていません。頭韻・リズム、それらを含めた音環境の影響、勿論ラテン語修辞法の影響など、考慮すべきことは沢山ありますが、この理由探しはとてもスリリングな作業です。

今後は写本の異同や動名詞との発達の比較を共時的・通時的に進めていこうと思っています。あるいは、例えば現代英語でも「I found her innocent」と「I found that she was innocent」では微妙に意味を異にするのですが、こうした相違が中英語にも既に認められるのかどうか、認められるとすれば何時辺りからどの程度、どのように内容と関わっているのかも、明らかにしたいと考えています。

教員紹介

各学科・センターの教員をご紹介いただいております。
所属・職位 生年 出身校 専門分野
主要著書又は論文どちらか1点
本校における担当科目 趣味

本山仁美（モトヤマ ヒトミ）



看護学科 助手
1965年6月3日
駒澤大学大学院人文科学研究科心理学専攻
成人看護学
ポケット版 クリティカルケアマニュアル（共著）
2000年 照林社
臨地実習及び技術演習の指導等
コントラクトブリッチ、メダカの飼育

メディア室から

広報誌も今回で36号を迎えることになりました。これも偏に広報委員の先生方、記事をお書きくださった方々、何より読者の皆様のお力に支えられての事と思います。

メディア室ではより充実した紙面づくりのお手伝いをしていこうと考えております。ご意見・ご感想などございましたらお気軽に下記の宛先まで。



〒324-8501 大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学 メディア室

編集後記

ドラスティックに変革が進む私たち領域だけどね、そのただ中を駆けつづけるのは快感でもあるね。澄んだ小声で、その教員は語った。冷静な口調と熱を帯びたことばとのアンバランスが小気味よく響いた。英知の表現スタイルは多様だ。多様な活動を時代に刻む役割を、IUHWは今後も果たすことであろう。どんな世紀が刻まれてゆくのだろうか？（西尾正輝）

IUHWクイズ - 第22弾 - 当選者発表

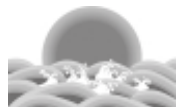
クイズに多数のご応募ありがとうございました。残念ですが前回、前々回に続いて今回も正解者がいませんでした。IUHWクイズ第23弾の賞品の旅行ギフト券は、次回繰り越しにします。ぜひ振ってご応募下さい。

問題

- 日本で最も早く21世紀の初日の出を見ることができるとはどこ？
南鳥島 母島 富士山山頂 千葉県犬吠埼
- 世界で最も早く21世紀の初日の出を見ることができるとどこにある？
南極大陸 キリバス諸島 ニューゼaland
- 2001年は平成13年ですね。さて、むかしの元号に直すと、正しいのはどれ？
明治135年 大正90年 昭和75年
- 国連は、2001年を「国際年（国際年）」としました。さて、次のうちどれ？
国際高齢者年 国際感謝年 国際エコツーリズム年 ボランティア国際年

(解答)

- 1 _____
- 2 _____
- 3 _____
- 4 _____



コラム ～お母さんも大学生～



入試で入学された三年間主婦業と学生生活を両立されてこられました。森下さんとの出会いは、三年前の医療福祉学科のプロモーションビデオ作成の際にインタビューをさせていただいたのがきっかけです。森下さんの三年間について伺いました。

様々な学生さんを紹介しているこのコーナーですが、今回は本学医療福祉学科三年生の森下千鶴さんです。

森下：森下さんがこちらの大学に入学されたきっかけは何ですか？

以前乳児園から老人ホームまである総合の福祉施設に六年半程働いていたのですが、福祉制度がどんどん変わって行く中で経験と勘だけで仕事をしていたので、いいのだろうかという思いと、福祉の理念を深く考えてみたいという思いが常にありました。それがこの大学に進んだ大きなきっかけです。

森下：現在の生活パターンはどういった感じでしょうか？

他の学生さん同様、大田原のアパートに下宿し週末埼玉の自宅へ帰り主婦に戻って掃除、洗濯、料理に追われています。三年間大学生活と家庭生活の両立はどうでしたか？

森下：学生生活についてですと、同僚に威勢良くもう一度勉強し直してくるからと旗を掲げて来たのですが一年時には講義で理解できないこともありこのまま果たして続けるのだろうか困難に思いましたけれど二年、三年と専門性を深めていくことによって先生方の教授法も何一つとさらに専門的知識を身につけることができ、今は大学に来て良かったなと思つています。家庭生活については料理は作ったものを冷凍にして置いて温めればいいようにすることなどしましたが銀行の手続き等も夫にまかせっきりだったので最初の頃は苦労していたようです。

森下：娘が二人おりますが両方とも大学三年生

です。家には大学三年生が三人いるというところで皆それぞれが希望を持つて自分の目標に向かっていくことと、また娘達と学生さんは全くの同年代で、福祉に真面目に取り組んでいる学生さんを見てるとうちの子もこんなだったらいいなと思つたり、私自身もつと頑張りなうと思つたり、さらにそういつたことを娘達とお互いに伝えあつていっているつもりです。学生の印象はどうでしょうか？

森下：入学した当時は若い人達に囲まれて、うまく大学生活を送れるかなと心配だったので同じ学科の学生さんがそういうのを気にせず気軽に接してくれるので助けられましたし、とても嬉しいですね。

森下：いよいよ今年が最終学年ですが目標は見えてきましたでしょうか？

森下：目標の一つは高いハードルですが、社会福祉士の資格を取ることです。もう一つは私の卒論のテーマであるファミリーグループホームの制度（赤ちゃんからお年寄りまで障害のある人もない人もが限りなく家庭に近い形で生活できる福祉の総合施設）や一人一人のニーズに合った福祉制度の確立の為に仕事に関わつていけたらというのが目標です。

森下：ご夫君の広輝さんはこの三年間を振り返つてみてどうでしょうか？

森下：まず第一に主婦の仕事は大変なんだなと思つきました。また三年経つてみて私たちが家族の中で家内が一番努力していると思つています。週末に帰つてきて大学の授業や生活について話してくれ、残された一年を先方や学友に囲まれてエンジョイしてほしいと思つています。



左からご夫君の広輝さん、森下さん、長女、子奈技さん、次女、のぞみさん

大学生と主婦の一人二役で頑張つていらっしゃるお母さん宛に長女の子奈技さんからお便りをいただいたので紹介させていただきます。

いつだったか、TVのCMのキャッチフレーズを思い出して「やりたいことを見つけたか」の宣伝だったけど息子と同じ大学へ通う母親の言葉に「ああ、うちと同じだな」と思いました。

我が家は大学生が三人、姉二人とそしてついでに四年前まで老人ホームの寮母としてバリバリ働いていた母である。三人とも別々の大学ですが、スタートラインは一緒。その為にお金がお金のように消えていく。こういう事はお金がお金のように消えていく。でも言つてもいいかもしれない。けれども、家族四人中三人が大学へ行くことのできるの、父の理解があるから。自分も父も、母の意欲はもうと凄い。自分の仕事（社会福祉）の領域を深めようとしてから大学で学ぶ。しかも私と同世代の子達と一緒に頑張って。カッコーイイの一言だ。誉め過ぎかな？ついでに母は若返つた。どんなことを勉強しているとか、単位やテストのことを心配したり教授のこととか。この話を聞いて、私達の友達のようか。と共感できる相手か母だなんて！それがまた私には嬉しかったりするんです。うん、確かに母は前よりも若返つた！

大学はチャンス作り場所。そのチャンスをどう使うかは、殆どが若者です。けれども、母からの年齢の人でやりたいことを見つけたから大学へ行くなんて行動ではないでしょうか。私がオバサンになつても、もう一度チャンスを作りたくて大学へ行くの母を見ている。そう私は思つたんです。（娘、子奈技）

勉強に家事にお忙しい中、取材させていただきましてありがとございました。学生生活も残すところあと一年、夢の実現に向けて頑張つてください。

IUHW クイズ - 第23弾 -

21世紀の到来、私たちはまさに数字の変わり目に生きている。ということで今回は数字の問題です。解答用紙に答えを記入したら、切り取って事務局窓口外側にあるメールボックスへ投入して下さい。正解者のなかから抽選で1名（前回、前々回と正解者がいなかったの、なんと今回はプレゼントが3倍です！）の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、締切は2月28日（水）です。

問題

縦書きのかけ算の計算中の数字で、1または5を（それらがあれば）毎と書き換え、それ以外の数字をどれも*と書き換えたところ、以下のようにになりました。もとの計算式はなんだったでしょう。（通例通り、2桁、3桁の数の先頭は0ではありません。）答えは何×何の形で書いてください。

$$\begin{array}{r}
 * * * \\
 * * * \\
 \times) * * * \\
 \hline
 * * * * \\
 * * * * \\
 \hline
 * * * * *
 \end{array}$$

解答用紙	学科	学年
名前		
解答		